



Be a peacebuilder!

不死鳥を象ったHPCのロゴは、奇跡の戦後復興を遂げた広島で、紛争後の国を支援する平和構築のプロを育成するというHPCの基本精神を象徴しています。

一般社団法人 広島平和構築人材育成センター (HPC)

<広島本部事務所>

〒730-0053 広島県広島市中区東千田町1-1-61 ナレッジスクエア1階

<東京事務所>

〒180-8520 東京都武蔵野市吉祥寺本町1-5-1 吉祥寺PARCO8階

TEL 082-909-2631

FAX 082-553-0910

URL <https://peacebuilderscenter.jp>

コピーライト(C) 外務省
デザイン・編集 一般社団法人広島平和構築人材育成センター (HPC)
発行 令和4年3月

外務省委託

平和構築・開発における
グローバル人材育成事業

Global Peacebuilders Program

令和3年度事業活動レポート

2021

広島平和構築人材育成センター
Hiroshima Peacebuilders Center (HPC)

CONTENTS

平和構築・開発における
グローバル人材育成事業とは 02

今年度導入した
感染症対策措置 03

プライマリー・コース 05

プライマリー・コース海外派遣 07

プライマリー・コース
修了生のキャリアパス例 08

ミッドキャリア・コース 09

キャリア構築支援 11

データで見るキャリア構築 13

事業が目指すキャリア構築 15

ピースビルダーズ対談 17

本事業に至るまで

紛争に苦しむ国々に対し、平和の定着や国づくりのための協力を強化し、日本の国際協力の柱とするための検討を行うため、平成14(2002)年「国際平和協力懇談会」(明石康・座長)で報告書がとりまとめられました。

また、平成18(2006)年8月、国連大学で開催された「平和構築を担う人材とは・アジアにおける平和構築分野の人材育成に関するセミナー」で「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」の立ち上げが表明されました。これを受け、平成19(2007)年に「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」が開始され、平成21(2009)年から「平和構築人材育成事業」として本格事業化しました。その後、平和構築分野の人材育成に関する取組を強化するため、「平和構築分野に関する有識者懇談会」(波多野敬雄学習院院長・座長)が議論を重ね、平成26(2014)年4月に岸田外務大臣(当時)に行った提言を受けて、平成27(2015)年から「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」として本事業が実施されました。平成30年度の外務省による企画競争の結果、広島平和構築人材育成センター(Hiroshima Peacebuilders Center: HPC)は令和2年度までの事業を担当しました。これによりHPCは、平成19年から通算14年間本事業を実施してきました。

これまで実施してきた「プライマリー・コース」に加え、「ミッドキャリア・コース」も実施しています。プライマリー・コースの海外派遣は、国連ボランティア計画(United Nations Volunteers programme: UNV)が実施しました。本事業の修了生は世界各地の国連機関・国際機関の本部および現地事務所、政府機関、NGO等の現場で活躍しています。



広島平和構築人材育成センター (HPC)

広島平和構築人材育成センターは、平和構築分野の人材育成、調査・研究などの事業を目的として創設された一般社団法人です。令和3(2021)年度外務省「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」の各研修コースやキャリア構築支援の実施団体で、過去14年間の事業運営経験を活かしながら本事業を実施しました。

広島復興の精神を基盤にして、日本の平和主義を反映させながら、世界平和に貢献する人材のキャリア構築を支援する活動を行っています。平和構築・開発援助・人道援助の専門家コミュニティのハブとなることを目指しています。



国連ボランティア計画 (UNV)

国連ボランティア計画(UNV)は世界的なボランティア活動を通して、平和と開発に貢献しています。

UNVはパートナーと協働して、価値があり、意欲が高く、十分にサポートされている国連ボランティアを開発プログラムに統合し、ボランティア活動の価値と世界的な認識を促進します。UNVは「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」の事業実施パートナーとして、事業の「海外派遣」部門の運営管理を行っています。UNVは毎年およそ130カ国で活動しています。そのうち約60カ国がフィールドとなっており世界中に広がっています。UNVは、国連開発計画(UNDP)によって管理され、国連開発計画理事会に報告しています。



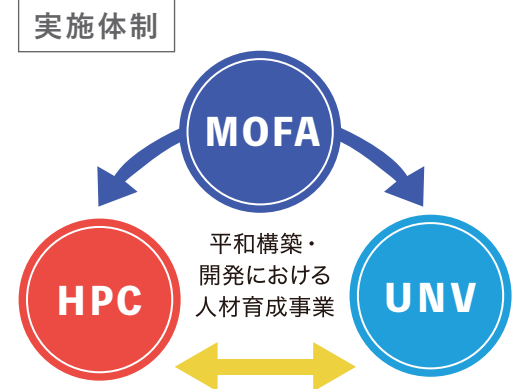
平和構築・開発の担い手を育てます

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業とは

本事業は、平和構築および開発分野で国際的に活躍していく人材を養成することを目的とした外務省の人材育成事業です。

令和3(2021)年度は、平和構築および開発分野で今後キャリア形成を目指す方のための「プライマリー・コース」、平和構築・開発分野で10年程度の経験を持ち、同分野で今後更なる活躍を目指す方のための「ミッドキャリア・コース」、プライマリー・コース修了生を中心に、国際機関やNGO等での就職を希望する方に、平和構築・開発分野のポスト獲得に必要なスキル・知識を提供する「キャリア構築支援」を実施しました。

本事業は、外務省委託事業として、前身である「平和構築人材育成事業」から今日の「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」に至るまで広島平和構築人材育成センター(HPC)が運営にあたり、プライマリー・コースの海外派遣は主として国連ボランティア計画(UNV)が実施しています。



国際的支援に貢献する意欲に満ち溢れた人材が、さらにその意欲を高めるために

平和構築の人材育成のための事業であれば、平和構築に関心を持つ者が事業運営にあたるべきではないか。その気持ちだけで、この事業を始めました。14年間にわたり、多くの方々と知り合うことができました。今や多くの研修員・修了生が、世界中の様々な組織で、平和構築に貢献しています。運営者として、本当に誇りに感じています。また、かつてHPCに勤務した元職員たちが、今は国連・政府・NGOを通じて、平和構築関連の現場・組織で働いていることも、嬉しく思います。平和構築を志す多くの方々が、HPCを媒介にして飛躍し、活躍し続けています。

この事業の主役は世界中で平和構築や開発に貢献する、研修員・修了生の方々です。ですから、本事業の運営にあたっては、主役のために何ができるか、という考え方に徹的にこだわりたいと考えています。幸いなことに、本事業を多種多様な関係各機関が支援してくれています。さらには、長い事業運営を通じて、すっかり事業のファンになってしまった講師層をはじめとする分厚い専門家層の支援者の方々もいます。人材育成は、簡単に結果が見えてくることはない、息の長い作業です。しかしそれだけに醍醐味のある活動です。HPCは、本事業をいっそう発展させてくれる新しい仲間をこれからも歓迎します。



篠田 英朗

HPC代表理事/平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・ディレクター/東京外国語大学教授

ロンドン大学(LSE)Ph.D.(国際関係学)。平和構築などに関する著作・論文多数執筆。代表作:『平和構築と法の支配』(大佛次郎論壇賞)、『国家主権という思想』(サントリー学芸賞)、『集団的自衛権の思想史』(読売・吉野作造賞)など。

本事業で提供する研修コースの特徴

■ キャリア構築に有益な知識の獲得や実務的な技能の習得をする機会を提供

キャリア構築に有益な知識とは、たとえば平和構築にかかわる様々な議論、現場で活動している主な組織、政策に関する知識のことです。これらを効率的に提供するだけでなく、様々な対応能力が求められる援助調整やプロジェクト運営を意識したシミュレーション形式の演習も取り入れています。チームワークを通じた課題解決という点で実際の業務に近い経験をできるように考慮しています。さらに、国連等の国際機関でのキャリア構築では個々人の多面的なコンピテンシー(業務遂行能力)が問われます。国内研修では、研修それ自体が一つの目標に向かって多国籍のチームがダイナミックな作業をする現場であると位置づけ、コンピテンシー向上のための具体的な経験を積む機会を作り出しています。

■ キャリア構築への意識を鋭くする環境を提供

自らがどうして平和構築にかかわるのか、どのようにかわるのか、これらのことを考えることは長期的にキャリアを構築する上で重要です。国内研修の機会を通じて平和構築分野に携わる動機や使命感を深めることができるように配慮しています。また、平和構築分野の経験がない方でも国際機関におけるキャリア構築についてイメージを具体化できるよう気づきの機会を提供します。

■ 専門家、実務家、修了生や同期研修員との国際的なネットワーク構築の場を提供

平和構築の現場には様々な学歴、経歴、バックグラウンドを持った人が関わるため、決まったキャリア構築の路線があるわけではありせん。様々な人の実例に数多くふれて経験的な知識を広げながら、創造的に自分のキャリアを切り開いていかなければなりません。研修の運営にあたっても、知識や経験が豊富な講師陣などの専門家層や修了生との交流を促進し、さらに悩みを語り合え、志を共有する仲間の輪を広げ、信頼関係で結ばれた人的ネットワークを充実させていけるように最大限の配慮をしています。

今年度導入した感染症対策措置

今年度のミッドキャリア・コースとプライマリー・コースは、昨年度と同様、世界中が新型コロナ感染症による影響を受ける中での実施となりました。両コースとも、開催直前にまん延防止等重点措置が適用され、さまざまな制限の中でスタートしましたが、十分な感染対策を施したうえで、対面式研修の醍醐味と、オンライン研修の安全性と利便性の両面を十分に検討し、バランスよく配分した「ハイブリッド方式」で実施することができました。



検査の実施(検査に関する支援)・出国者への支援

日本人の研修員(参加者)及び講師の出入国に際しては万全の対策を施し、公共交通機関によらない移動手段を確保するなど、感染予防に努めました。また、入国前のPCR検査や日本入国後の自主隔離の管理にも万全を期しました。会場に来る研修員(参加者)、講師、HPC職員及びその他の関係者による事前のPCR検査を必須としたうえで、連日会場付近に滞在する研修員、講師及びHPC職員には、研修中も繰り返し抗原検査を繰り返し行っていくことを求めました。自己隔離期間中にも、定期的に連絡をとり、発熱の有無を含め、健康状況の把握に努めました。



飛沫対策



研修会場では全員の座席の前と横にアクリル板を設置し、マスクの常時着用を原則としました。ミッドキャリア・コースでは、最大70人の収容が可能な会議室を15人程度の参加者、講師及びHPC職員で使用し、プライマリー・コースでは、最大120人の収容が可能な会議室を30人程度の研修員、講師及びHPC職員で使用することで、十分なソーシャル・ディスタンスを確保するとともに、全員分の専用マイクを用意することで、発言の際に大声にならない環境を確保しました。講師席も同様の措置をとるだけでなく、講師が立つ前方には大きめのアクリル板をはりめぐらせ、研修員の座席ごとにノートPCを配置して、講師席をデスクトップ上で確認できるようにしました。また、研修会場の横に、研修会場と同様に座席の前面と両側面にアクリル板が設置された別会場を用意し、グループ作業時や昼食時に使用できるようにしました。

エアロゾル対策



会場では最大限の換気(複数の窓の常時開放と30分に一回程度の追加の窓開け)を確保し、ホテルが常設している粒子除去の空調設備とともに、追加で粒子除去の空気清浄機を導入設置しました。空気清浄機は政府が推奨するHEPAフィルターと同じレベルのサイズの粒子除去が可能なもの(風量が毎分5㎡程度以上)を使用しました。また、感染症対策で推奨されている室温18度以上、湿度40%以上を確保し、寒さ対策として個々人に使い捨て毛布と使い捨てカイロ等を提供し、参加者の皆様には厚手の服装での参加を推奨しました。なお、会場内には加湿器も設置しました。

オンライン参加者への支援

研修参加を認められながら、日本及び世界各国の入出国管理規制によってやむなく日本への渡航を断念せざるを得なかった方々にも、オンライン形式で積極的にコースに参加していただく機会を確保しました。全ての研修内容をオンラインで中継することによって、研修会場の様子を単に視聴するだけでなく、全体議論における質疑応答や、小人数に分かれてのグループ作業やロール・プレイにも、全て加わっていただきました。時差によるハンデを乗り越えたオンライン研修員(参加者)の方々の自助努力もあり、ミッドキャリア・コース及びプライマリー・コースにおいて、対象者のほぼ全てのセッションにおける活発な参加を確保しました。



接触対策



研修会場にアルコール消毒薬を常設しました。研修会場に入る際だけでなく、それ以外の機会でも最大限の手の消毒及び、周辺備品・机等の消毒を実施できるようにしました。また、研修員(参加者)に対して携帯用の消毒液を配布し、研修会場内外での周辺備品やドアノブの消毒等を推奨しました。スタッフは消毒薬と併用で、使い捨て手袋の使用を徹底しました。研修にあたっては、紙媒体の配布物の原則廃止と、共有物あるいは複数人が触れる物を作らない方針を徹底し、グループ作業などにあっても、消毒前の座席変更などが発生しないように万全の配慮を施しました。毎日食事の前後や研修終了後は、机・椅子・ドアノブ・タブレット・パソコンなど多くの人が触れる箇所をアルコールにて、アクリル板は中性洗剤にて拭き、消毒を行いました。

その他



入室の際、自動体温測定器による検温を行い、発熱の有無を確認できるようにしました。また、体調不良時は速やかにHPCスタッフへ連絡する体制を作り、状況に応じて自室にてオンラインで研修を受講するように勧めました。研修前には参加者へ新型コロナ感染症の予防対策についての資料を送付すると同時に、研修室内に厚生労働省作成の新型コロナ感染拡大防止のための啓発ポスターを掲示し、研修期間中を通じて内容説明を行いました。研修期間中の日本国内の政府・地方自治体の新型コロナ感染症対策の概要についての説明も行いました。デリバリー・サービスの情報提供や発注支援なども行いました。

Primary Course プライマリー・コース

身につくのは、知識、実践、自信、そして人の輪

01 国内研修

2022年1月19日から2月22日までの約5週間にわたって国内研修を実施しました。外国人研修員は、新型コロナウイルスにかかる日本政府の水際対策との関係で、全員が来日困難となったため、全日程を通じ、本国からオンラインで参加することとなりました。日本人研修員は、うち若干名が途中まではオンラインで参加し、最終的には全員が対面形式で参加するに至りました。また、講師については38名中12名が実地で、残る26名にはオンラインでご貢献いただきました。コースの全日程を通じて、実地参加とオンライン参加を恒常的に両立させた「ハイブリッド方式」で実施し、経験豊富な講師の下でロール・プレイやグループワークなども行われ、オンライン研修員も活発に参加して、大変有意義な研修となりました。また、研修会場では飛沫・エアロゾル・接触に対する最大限の感染予防・防止策を施しました。海外の平和構築人材育成機関や国連などの国際機関と連携し、世界最高水準の講師陣による充実した研修となり、これによって、平和構築・開発分野の第一線で活躍する実務家との人的ネットワークの形成も期待されます。

02 海外派遣

日本人研修員は国内研修修了後、国連ボランティア（UNV）として平和構築・開発分野の現場で活動している国際機関等へ、最大12ヵ月間派遣されます。研修員は、国内研修実施後の2022年3月から順次派遣されることになっています。平和構築・開発分野の専門家になるためには、実務経験が欠かせません。国内研修で習得した理論やスキルなどを現場で実践する貴重な機会となります。なお2021年10月には、研修員と派遣先の円滑なマッチングのために、国連機関駐日事務所の職員の方々と日本人研修員をオンラインでつないで、オリエンテーションを実施しました。また、研修初日の1月19日には、研修員と外務省その他政府機関等、国連機関及び各国在京大使館の交流の場としてオンラインミートアップが開催され、海外派遣に関する情報共有や意見交換が行われました。

03 キャリア構築支援

国内研修開始前から、将来のキャリア・プランづくりを支援しています。国際機関の要職経験者や人事担当者による助言制度などのサポート体制を強化するとともに、他の研修員、国内研修の講師陣、海外派遣先の機関などと研修を通じて幅広い人脈を築くことが可能です。また、採用に関する情報の提供も行っています。

国連機関

国際機関

国際NGO

国内NGO

政府機関

その他

今年度研修員からのメッセージ



ケルビン・カランジャ

プライマリー・コースは、発展途上国の変革や人々の苦しみの軽減への貢献を目的とする私のキャリアの方向性に合った、喜ばしい刺激でした。これは収集能力、理解力、知識、実践のすべての分野を網羅した、しっかりと構成された平和構築と開発の講義により達成されました。ファシリテーターやメンターには、長年の実践により洗練されたプレゼンテーションをしていただき、その人選は本当に素晴らしいものでした。私の友人であり、相互的につながったグローバルな世界の進歩的なネットワークの一部である同僚の研修員との価値観の共有、洞察の収集や交流ができた約5週間は、ケニアの農村に育った若者の視点からも、非常に素晴らしいものだったと言えます。このコースは、私の自信を高め、社会や活動でインパクトを創造し、フィールドや本部の広大な領域からグローバルなチャンスを得るための準備をしてくれました。私は、色鮮やかな日本で研修もしたいと願っておりましたが、オンライン研修も同様に実用的なものであり、私はこの機会に感謝し、誇りあるHPCの修了生として貢献する準備ができています。



平島 萌子

私は、看護師/保健師として、医療機関と保健所で勤務し、主に感染症の対応を担当していました。UNVとしての海外派遣は、初めての経験です。プライマリー・コースは、国連で働く上で必要な知識とスキルを身につけるための、大変貴重な機会となりました。コースでは、平和構築・紛争解決をテーマに、課題の分析・計画・実施・評価までのプロセスを包括的に学びます。研修は、経験豊富な講師による講義で方法論や事例を理解し、グループワークを通して、実践的に学びを深めるという構成でした。グループワークでは、複雑な状況を分析し、適切な支援を届けることの難しさを体験すると同時に、論理的かつ柔軟な思考、明確なコミュニケーション、そして関係機関との連携の重要性を実感しました。研修中に、講師や修了生からキャリア構築についてのアドバイスや、ご自身の経験を共有して頂いたことも、大変心強かったです。また、同じ道を志す同期研修員と出会えたことは、一生の宝物です。コースは、UNVとして必要とされる知識やスキルが習得できるプログラムです。これから、国連でのキャリア構築を目指す若手にとって、最高の機会だと思います。

国内研修の様子



国内外から講師・研修員が集い、オンライン上で活発な討議・グループ作業を行いました。



小田原外務副大臣が研修会場を訪問され、研修員及び講師と平和構築の課題について自由闊達な議論を交わしました。



チームワークを発揮し、講師の助言も得ながら、グループ作業を行いました。



最初の週末のエクスカージョンでは、「広島平和記念公園」を訪問しました。

令和3(2021)年度プライマリー・コース：国内研修カリキュラム・講師紹介

Initial Week

開講式・外務省副大臣表敬（オンライン）・自己紹介プレゼンテーション・チームビルディング・平和構築の紹介・コンピテンシー（業務遂行能力）の紹介

実地講師

篠田 英朗

HPC代表理事/東京外国語大学教授

玉内 みちる

HPCシニア・アドバイザー（キャリア構築支援）

〔陸上自衛隊陸上総体国際活動教育隊〕

研究員 岩本 玲央 / 警備陸曹 増田 貴子 / 評価担当員 西野 拓也

オンライン講師

上杉 勇司

HPCコースメンター/早稲田大学教授

Workshop1: アナリシス

紛争分析の理論と様々な方法
政治的・法的分野の政策的課題

実地講師

藤原 広人

国際刑事裁判所（ICC）書記局・対外活動局
国別分析ユニット長

篠田 英朗/玉内 みちる

オンライン講師

デズモンド・モロイ

平和と紛争研究センター（CPCS）コンサルタント/バナストラ大学非常勤講師

ジョマート・オルモンベコフ

国連政治・平和構築局（DPPA）
北京駐在政務調整官

小野 京子

国連人道問題調整事務所（OCHA）ラカイン事務所代表

シモネッタ・ロッシ

国連シエラレオネ常駐調整官事務所（UNRCO）平和・開発アドバイザー

リサ・リーフキ

国連アフガニスタン支援ミッション（UNAMA）政務部上級政務担当官

上杉 勇司

Workshop2: プランニング

活動計画の立案の手法
安全保障分野（DDR・SSR・PKOミッション等）の政策的課題/人事

実地講師

田中 美樹子

元在ガイアナ国連常駐調整官

篠田 英朗/玉内 みちる

オンライン講師

長谷川 祐弘

日本国際平和構築協会理事長/元国連事務総長特別代表（東ティモール担当）

マリア・ロペス・エcheバリア

国連南スーダン共和国ミッション（UNMISS）復興と帰還、社会復帰担当官

エマ・ビリコラン

コフィ・アナン国際平和維持訓練センター学務・研究学部副学長

マイケル・エメリー

国際移住機関（IOM）人事部長

上杉 勇司/デズモンド・モロイ

平原 弘子

国連南スーダン共和国ミッション（UNMISS）ベンティウ事務所長

ウマル・バ

元国連マリ多面的統合安定化ミッションガオ地域事務所長

大庭 真理枝

国連開発計画（UNDP）南スーダン再統合専門官

渡辺 愛子

国連平和活動局（DPO）プログラム管理官

キャリア構築支援

実地講師

玉内 みちる

Workshop3: コーディネーション

多様な組織間の業務調整・交渉の手法
人道援助活動の政策的課題/コミュニケーションスキル

実地講師

忍足 謙朗

難民を助ける会（AAR Japan）常任理事/日本国連食糧計画（WFP）協会理事/元国連世界食糧計画（WFP）アジア地域局長

小松原 茂樹

国連開発計画（UNDP）マラウイ共和国常駐代表

篠田 英朗/玉内 みちる/平原 弘子/岩本 玲央/増田 貴子/田中 美樹子

オンライン講師

ピーター・コゼレッツ

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）上級保護官

ギヨム・フォリオ

Global Vision創設者兼リードコンサルタント/Le Designer Clandestin創業者

舩岡 真理

国連世界食糧計画（WFP）アフガニスタンサプライチェーン担当官

ジョン・キャンベル

セキュリティ・コンサルタント/元国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）アジア太平洋安全アドバイザー・eセンターコーディネーター

ルイス・ロビンソン

InSiTuトレーニングディレクター/上級人道支援アドバイザー・安全トレーニング専門家

上杉 勇司/デズモンド・モロイ

Workshop4: マネジメント

プロジェクト・マネジメントの手法
様々なファンドスキームを通じた開発援助活動の政策的課題

実地講師

篠田 英朗/忍足 謙朗/小松原 茂樹/中村 俊裕/末藤 千翔/玉内 みちる/田中 美樹子

オンライン講師

ママドゥ・ウンダウ

国連開発計画（UNDP）アディスアベバ地域サービスセンターリザルト・ベースド・マネジメントアドバイザー、チームリーダー

イブラヒム・ムサ

政策スペシャリスト、国家平和と開発スペシャリスト・アドバイザー

鈴木 恵理

国連児童基金（UNICEF）東部・南部アフリカ地域事務所 子どもの保護担当官

桑田 弘史

国連開発計画（UNDP）国別支援管理チームプロジェクトプロジェクト調整専門官

藤村 梨紗

国連開発計画（UNDP）・国連政治・平和構築局（DPPA）共同プログラムM&E・プログラム専門官

大塚 玲奈

国連開発計画（UNDP）デジタルイノベーション専門官

熊丸 耕志

国連開発計画（UNDP）水セキュリティ・プロジェクトマネージャー

上杉 勇司/デズモンド・モロイ

安全管理術

実地講師

篠田 英朗/忍足 謙朗/末藤 千翔/小松原 茂樹

オンライン講師

ジョン・キャンベル/ルイス・ロビンソン

キャリア・デザイン

キャリアコンサルタントとして人材育成・活用に関するコンサルティング及び研修に従事

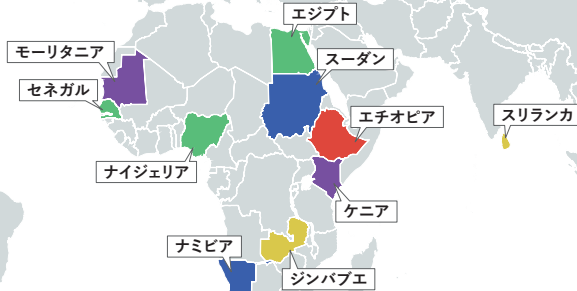
オンライン講師

佐藤 知央 オフィスクラッチ代表

令和2(2020)年度 プライマリー・コースの海外派遣先実績



- 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) エチオピア
- 国連児童基金 (UNICEF) スリランカ/ジンバブエ
- 国際移住機関 (IOM) セネガル/エジプト/ナイジェリア
- 国連人口基金 (UNFPA) ナミビア/スーダン
- 国連世界食糧計画 (WFP) ケニア/モーリタニア



平成19年度～令和2年度までの
14年間の派遣先機関数：25機関
派遣先総数：63ヵ国・地域

- UNDP(国連開発計画)／47名
- UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)／36名
- UNICEF(国連児童基金)／32名
- IOM(国際移住機関)／17名
- WFP(国連世界食糧計画)／14名
- UN Women(国連女性機関)／9名
- UNRCO(国連常駐調整官事務所)／5名
- UNOPS(国連プロジェクトサービス機関)／4名
- FAO(国連食糧農業機関)／3名
- OCHA(国連人道問題調整事務所)／3名
- UNMISS(国連南スーダン共和国ミッション)／3名
- UNODC(国連薬物犯罪事務所)／3名
- WHO(世界保健機関)／3名
- UNESCO(国連教育科学文化機関)／2名
- UNFPA(国連人口基金)／2名
- UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)／2名
- IDEA(民主主義・選挙支援研究所)／1名
- Office of UN Funds and Programmes Cape Verde (国連基金・計画カーボベルデ事務所)／1名
- UNDRR(国連防災機関)／1名
- UN-Habitat(国連人間居住計画)／1名
- UNIOGBIS(国連ギニアビサウ統合平和構築事務所)／1名
- UNMAS(国連地雷対策サービス部)／1名
- UNFICYP(国連キプロス平和維持軍)／1名
- UNAMID(ダルフール国連AU合同ミッション)／1名
- UNMIS(国連スーダンミッション)／1名

※PKOミッションへは本事業終了扱いで派遣されています。

国連ボランティアとして積み、
平和構築・開発の現場での実務経験

海外派遣では、国連ボランティアとして国際機関での実務に従事します。これによって、国内研修で習得した理論やスキルを現場で実践すると同時に、実務経験を積みながら現場での活動のノウハウを習得します。これまでの事業では、国連開発計画 (UNDP)、国連児童基金 (UNICEF)、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、国連世界食糧計画 (WFP)、国際移住機関 (IOM) といった国連機関が主な受け入れ先となりました。派遣先の地域もアフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、東南アジア、中央アメリカなど非常に多岐にわたっています。



<国際移住機関 (IOM) / ナイジェリア> IOMナイジェリアの20周年記念式典における集合写真



<国連人口基金 (UNFPA) / ナミビア>
思春期・青年向けヘルスクリニック
「ナミビア家族計画協会 (NAPPA)」の活動現場を訪問した時の様子



<世界食糧経計画 (WFP) / ケニア>
WFP倉庫での在庫管理の様子。
ここから、東アフリカ9ヵ国を中心に運ばれていく。

プライマリー・コース修了生のキャリアパス例



中富 晶子 平成29(2017)年度 | プライマリー・コース修了生

応募動機

元々国連機関で働くことに興味があり、国連機関でキャリアを積むためには、まずは国連システム内に入ることが重要だと思い、海外研修 (UNV派遣) を通じて国連でのキャリアの第1歩をスタートさせたいと考えました。また、応募した際は国際協力分野で働き始めてから5年以上経過していたため、HPCの充実した国内研修と経験豊富な講師陣との交流を通じて、国際協力における知識のアップデート、特に国連機関から見た人道支援・開発援助についての学び、最新の議論を追いたいと思い応募しました。

研修参加前のキャリア

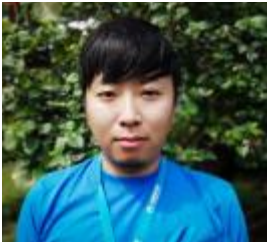
海外派遣での
タイトル・職務内容

研修修了後のキャリア

アメリカの大学院で紛争学を学んだ後、外務省国際協力局国別課でルワンダとブルンジへのODA業務を担当し、その後、在ルワンダ日本大使館で援助協調やODA案件管理などの業務に携わりました。その後、対パレスチナ日本政府代表事務所、2014年のガザ攻撃後の緊急支援を担当し、その後JICA専門家としてパレスチナ地方自治省にプロジェクト・コーディネーターとして派遣され、任期が終わると同時にプライマリー・コースに参加しました。また、これらの仕事の間に、UNHCRタンザニア事務所やUNICEFパレスチナ事務所でのインターンも経験しました。

海外研修では、UNICEFヨルダン事務所に青少年育成担当官として派遣されました。ヨルダンの青少年 (10歳から24歳) を対象とした社会参画プログラムの計画立案や案件管理、全体調整を担当し、カウンターパートの能力強化支援やアドボカシー・ペーパーやプログラム戦略のための情報収集・分析、ナレッジ・マネジメント等にも携わりました。UNICEFヨルダン事務所の青少年育成プログラムはここ数年で事業規模が大幅に拡大し、新しい分野でのプロジェクトを立ち上げるなど勢いのあるプログラムだったため、プレゼンテーションに参加する機会やワークショップでリードする機会もあり良い経験が積みましました。

研修終了後は、UNICEFヨルダン事務所でも採用され、引き続き青少年育成プログラムを担当しました。研修中には、JPO受験や空席ポストへの応募もしていましたが、自分のことを高く評価してくれる上司がいたこともあり、同事務所でのポストに応募し、2021年の1月から、ヨルダンにあるシリア難民キャンプの青少年育成プログラムの主担当として働いています。現在は、難民キャンプ内にあるユース・センターの運営やスタッフの能力強化、青少年育成プログラムの事業拡大・実施、他のUN機関やNGOとの調整等を担当しています。



森 貴志 平成27(2015)年度 | プライマリー・コース修了生

応募動機

大学・大学院において国際法を学び、特に難民支援の分野においてキャリアを構築していきたいと考えようになり、大学院卒業後 UNHCRマレーシアにおいてインターンを行う中で次のステップを模索していました。そこで、平和構築や開発の分野において必要な知識や技術を習得することができる国内研修に加えて、海外実務研修として実際に現場で職務経験を積むことができる同事業に応募しました。

研修参加前のキャリア

海外派遣での
タイトル・職務内容

研修修了後のキャリア

筑波大学国際総合学類卒業後、NGOのパレスチナ・ガザ地区駐在員として勤務しました。その後、国連平和大学 (国際法と紛争解決学) で修士号を取得し、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) マレーシアでのインターンを経て、グローバル人材育成事業に参加しました。

UNHCRセルビアで准保護官として、(1) 難民・移民などの滞在施設のモニタリングおよび個別案件対応、(2) 難民認定作業、(3) 家族追跡および再統合などを担当しました。内容としては、(1) 定期的な訪問を通して、情報・ニーズ・不満などを包括的に収集して必要とされているサービスを提供すること、(2) 第三国定住が必要と思われる庇護申請者などを対象に、対象者が置かれている状態が適用可能な難民の定義に規定されている基準に当てはまるかどうかを、面接などを通して審査すること、(3) 離散家族の追跡調査や情報共有、メールや電話などでの離散家族間の連絡手段の確保、そして再会の際にはロジスティックサポートを行っていました。

本事業終了後、UNHCRセルビアにて同ポジションを延長していただきました。その後、JPOとしてUNHCRバングラデシュのcockspazargalにてAssociate Protection OfficerとしてCommunity-Based Protectionn (地域コミュニティによる保護) の分野において3年間勤務し、追加で半年の契約延長を行いました。現在はUNHCRミャンマーのミッチャーナー事務所において保護クラスターにおける管理・調整に携わっています。



折笠 福美 平成30(2018)年度 | プライマリー・コース修了生

応募動機

小さい頃から、いろいろな国で、平和構築を含む国際協力の現場で働く人々とふれ合うことで、自分も平和構築に関心を持ちました。また、将来は平和構築の分野で、自分も国際社会で活躍したいと考えたことが、私が本事業への参加を志望した理由です。

研修参加前のキャリア

海外派遣での
タイトル・職務内容

研修修了後のキャリア

国際NGOコモングラウンドでのコンサルタント業務において、平和構築と紛争移行を担当しました。その後、コフィ・アナン財団にて、選挙と政治についての知識と経験を得ました。事業参加前に、ジュネーブ国際開発研究大学院 (IHEID) で開発学を専攻しており、卒業した後に事業に参加させていただきました。

国連女性機関 (UN Women) のアジア太平洋地域事務において、モニタリングと報告についての業務を担当しました。地域で活動するプロジェクトチームと連携しドナーへの質の高い報告書を提出するサポート、そしてプロジェクトチームへの報告に関する方針・期日通りの書類提出に関する助言等を行いました。

2020年12月から「紛争下の性的暴力に関する事務総長特別代表事務局 (SRSG/SVC)」のUN Action against Sexual Violence in Conflictで勤務しており、性的暴力に係わる紛争処理業務全般を担当しております。

Mid-Career Course ミッドキャリア・コース

平和構築・開発の現場におけるキャリア構築のためのスキル・能力の深化と実践



ミッドキャリア・コースでは、平和構築・開発に関連する諸分野(法律、行政、医療、IT、調達、会計、広報、環境等を含む)で10年程度の実務経験を有する方々のキャリア発展を目的とし、組織における立場の変化や複雑化する業務への対応等の課題に対し、求められる総合的な応用力として、国際機関における「Competencies(業務遂行能力)」である「コミュニケーション/ネゴシエーション」、「リーダーシップ/マネジメント」に焦点をあてて、ロール・プレイ演習などを通じた強化を目指しました。参加者の方々には、講師陣のフィードバックをもとに更なる個人のパフォーマンスの向上を図り、またチームワークを通じたネットワーク構築を進めていただく機会を提供しました。今年度は2022年1月5日から1月11日の7日間にわたり、実地とオンラインを組み合わせた「ハイブリット形式」の研修を東京で実施しました。

今年参加者からのメッセージ



ズベアー・エザット 国連開発計画(UNDP)シリア 支援管理部チームリーダー

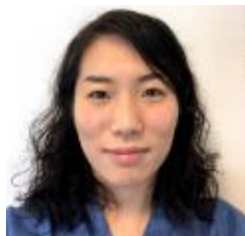
私はアフガニスタン、ソマリア、シリアで20年以上にわたって開発、平和構築、人道支援の分野で働いており、地域事務所からいくつかのアラブ諸国への支援も行っています。長年、国連の素晴らしいリーダーたちと仕事をし、自らの管理能力・リーダーシップの成長に繋がったことは、とても幸運でした。それでも、今日も直面している課題はあります。HPCが主催するミッドキャリア・コースは、私がこれらのリーダーシップとコミュニケーションの課題を紐解く手助けとなりました。このコースは、中堅および中間管理職の専門家がキャリアの次のレベルに到達するためのニーズに応えていると思います。業界の専門家や国連リーダーを経験された方々がファシリテーターとして、実績のある管理アプローチを提供してくださいました。新たに獲得した能力を活用すること、日々の職務や個人の生活の中で参加者が直面する課題を共有すること、ファシリテーターからの実践的なアドバイスを得ることなどを目的とした講義は、多くの参加者にとって貴重なものとなりました。

7日間の集中したコースは、新しい同僚と知り合い、交流し、私の専門的なネットワークを拡大する機会でもありました。開始直前に施行されたCOVID-19の入国制限により、実地参加することはできませんでしたが、オンラインツールを使用することで実地の参加者と平等に効率的なサポートが受けられるように編成されておりました。素晴らしいアレンジメントを提供してくれたHPCの主催者とスタッフ、そしてコース全体を素晴らしい形で進めてくれたHPCのディレクターに感謝の意を表します。



野口 義明 国連開発計画(UNDP)ナイジェリア プログラムマネージャー

私はUNDPナイジェリア事務所に所属し、紛争地であるナイジェリア北東部の復興プロジェクトを管理しています。これまでにUNDPおよびJICAに勤務し、アフリカ3か国における開発プログラムを担当してきました。今後さらに国際開発分野におけるキャリアを発展させたいと考えており、その為にHPCのミッドキャリア・コースを受講しました。結果として、非常に良い学びと気づきとネットワークの機会となりました。まずコミュニケーションを含めたリーダーシップの理論を学びました。人間としての協調的な関係と、相手をよく理解しようとする事が良いコミュニケーションの土台だと学んだ事で、自分が日々の業務の中でそれを実行できているか、と見つめ直す機会になりました。また、伝説的な先輩方から、現場におけるご経験をお聞きし、緊急人道支援および地球規模課題への取り組みに向けた情熱を新たにする事が出来ました。また、別の参加者の皆さんや講師の方々と、講義時間の内外でお話した事により、ネットワークを強化する事も出来ました。今後、日々の業務やポスト獲得に向けた活動において、このコースで学んだ事を活かして行きます。貴重な機会を与えていただいた事務局および講師の皆様へ心より御礼申し上げます。



仲佐 かおり 元国連移住機関(IOM)中東・北アフリカ地域事務所 COVID-19コーディネーター

「この場所には数百年間分の知見が集まっている」。研修中にどなたかが発した言葉です。本ミッドキャリアコースの価値はこの言葉に凝縮されています。国連にて30年以上勤務しトップの役職を歴任されてきた講師陣に加え、平和構築、人道、および開発の分野で世界中の様々な現場で10年以上経験されてきたメンバーとのやりとりを通し、組織やチームの一員として、そして、リーダーとしての自分自身の強みや弱みを振り返り、そして周りから指摘いただき、どんなレベルの役職に就いたとしても必要なスキルや心構え、考え方を学ばせていただいた七日間でした。私自身は、約10年間人道支援の現場で働き、今後のキャリアを模索するタイミングで参加させていただきました。コミュニケーションや交渉術、チームマネジメントなど、今まで様々な方々にご指導いただき、そして、参考にさせていただいて行ってきたことを改めて振り返る良い機会にもなりました。また、講師陣および研修員の皆さんが困難な場面をどのように乗り越えてきたか語る場面では、その場の議論を通して同じような状況でも様々なアプローチの方法があることを学ばせていただきました。私にとって本コースでの一番の収穫は、組織の一員として国連のミッションを実現する人材になるためにはどのようなスキルを向上し、どのような考え方を持ち合わせていく必要があるかより明確になったことです。複数の講師の皆さんが同じアリストテレスの言葉をコミュニケーションの基本として掲げられていました。ロゴス、エトス、パトス、何一つ欠けても人には伝わらないし、人を動かすことはできない。この基本も含め、今回学んだ事を本当の意味で理解し自分の物にできるまでには時間が必要だと感じています。今後は、今回出会うことができた皆さんと共に研鑽していきたいと思っています。

令和3(2021)年度ミッドキャリア・コース参加者出身機関

IOM(国際移住機関)／UNICEF(国連児童基金)／UNMISS(国連南スーダン共和国ミッション)／UNDP(国連開発計画)／UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)／ILO(国連労働機関)／世界銀行(World Bank)／JICA(国際協力機構)／UNOWAS(国連西アフリカ・サヘル事務所)／UNRCO(国連常駐調整官事務所)／防衛省／NGO／大学院

過去6年間のミッドキャリア・コース参加者出身機関(2015年～2020年度)

DPKO(国連平和維持活動局)／DFS(国連フィールド支援局)／UNMAS(国連地雷対策サービス部)／DPI(国連広報局)／UNRCO(国連常駐調整官事務所)／IOM(国際移住機関)／UNICEF(国連児童基金)／WFP(国連世界食糧計画)／UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)／FAO(国連食糧農業機関)／UN-Habitat(国連人間居住計画)／UNESCO(国連教育科学文化機関)／UNAIDS(国際連合エイズ合同計画)／ILO(国際労働機関)／UNOPS(国際連合プロジェクトサービス機関)／UNDP(国連開発計画)／UNFCCC(気候変動枠組条約事務局)／UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)／WHO(世界保健機関)／UNITAR(国際連合訓練調査研究所)／UNMISS(国連南スーダン共和国ミッション)／UNSOM(国連ソマリア支援ミッション)／MINUSMA(国連マリ多元統合安定化ミッション)／UNSOA(国連AMISOM支援事務所)／UNOCA(国連中央アフリカ地域事務所)／UNFICYP(国連キプロス平和維持軍)／OSES(国連事務総長特別代表[シリア]事務所)／KAIPTC(コフィ・アナン国際平和維持訓練センター)／ICRC(赤十字国際委員会)／INTERPOL(国際刑事警察機構)／日本アセアンセンター／世界銀行／メコン川委員会／OSCE(欧州安全保障協力機構)／UNIDO(国連工業開発機関)／国連日本政府代表部／MSF(国境なき医師団)／ADB(アジア開発銀行)／ICC(国際刑事裁判所)／外務省／内閣府／防衛省／JICA(国際協力機構)／NGO／民間企業

(機関名称はコース参加当時の名称)



令和3(2021)年度ミッドキャリア・コース：カリキュラム・講師紹介

リーダーシップとコミュニケーションのコンピテンシー(業務遂行能力)の概論 国際機関におけるリーダーシップとコミュニケーションの応用

1ST STAGE TRAINING

リーダーシップとコミュニケーションのコンピテンシー(業務遂行能力)の概論

- DAY 01** リーダーシップとコミュニケーションのコンピテンシーについての概要
- DAY 02** コミュニケーションスキルの必須ポイント
- DAY 03** コミュニケーションスキルの適用

2ND STAGE TRAINING

国際機関におけるリーダーシップとコミュニケーションのコンピテンシー

- DAY 04** 国連でのリーダーシップの課題の共有
- DAY 05** 国連でのリーダーシップの課題への対処
- DAY 06** リーダーシップコンピテンシーの強化
- DAY 07** リーダーシップとコミュニケーションの総合的復習

実地講師

- 篠田 英朗** HPC代表理事／東京外国語大学教授
- 上杉 勇司** HPCコースメンター／早稲田大学教授
- 玉内 みちる** HPCシニア・アドバイザー(キャリア構築支援)
- 忍足 謙朗** 難民を助ける会(AAR Japan)常任理事／日本国連食糧計画(WFP)協会理事／元国連食糧計画(WFP)アジア地域局長
- 田中 美樹子** 元在ガイアナ国連常駐調整官

オンライン講師

- アミーラ・ハク** バングラデシュ農村振興委員会(BRAC)グローバルボード議長/元国連活動支援担当事務次長(USG for Field Support)/元東ティモール担当国連事務総長特別代表(SRSG)兼国連東ティモール統合ミッション(UNMIT)代表
- シッダルタ・チャタージー** 在中国国連常駐調整官
- ウマル・バ** 元国連マリ多面的統合安定化ミッション ガオ地域事務所長
- カーステム・ジャウワー** 国連事務局上級企画担当官
- 長谷川 祐弘** 日本国際平和構築協会 理事長／元国連事務総長特別代表(東ティモール担当)
- ロブ・ブレナン** コミュニケーションマネジメントとリーダーシップのための研究機関(ICML)シニアファシリテーター

キャリア構築支援

採用のプロセスと仕組みを理解し、戦略的に応募の準備をするコツを知る

キャリア構築カウンセリング

プライマリー・コース研修員・修了生、及び他コースの参加者を対象に玉内みちるシニア・アドバイザーによるカウンセリングを継続的に実施。受講者はこれまでの経験・専門性を振り返りつつ、自身の今後のさらなるキャリアの発展に役立つアドバイスを受けました。

キャリア構築システム

プライマリー・コース日本人修了生専用のウェブサイトページを作成し、キャリア構築支援の拡充を行っています。修了生専用のウェブサイトページ内では、修了生同士のネットワーキング拡充や、オンライン・サロンの実施、メンターシステムを導入しキャリアについて深く考える機会を提供しています。



玉内 みちる HPCシニア・アドバイザー（キャリア構築支援）

ポスト・コロナの時代における平和構築と国際開発・協力のキャリアは、大きな転換期を迎えています。世界規模で、環境、社会、政治、国際関係の仕組みに関わる「在り方」が根本的に再編成されていく中、HPCの実践的なグローバル人材育成プログラムの重要性がこれまでにないほど求められていると思います。なぜなら、パンデミック後に必要とされるグローバル人材のスキルセットはかなり違ったものになりつつあるからです。例えば、確固な専門知識はもとより、従来大切だとされてきた「リーダーシップ力、コミュニケーション力、そして調整力」などに加えて、データリテラシー（データの読解力と運用の能力）や、想定外のシナリオにも立ち向かえるフレキシビリティやイノベーション力もキャリア構築の不可欠な要素となってきています。

そのため、これからますます、グローバル人材としての即戦力感を備えられるトレーニングで、さらに自分自身の能力を磨いていくことが大切となってきています。HPCでは、長年培った国連・国際機関との豊富なネットワークによって、コロナ危機後の国連・国際機関職員に求められる新しいスキル、能力やコンピテンシーを、一足先に見据えることができ、多角的に皆様が現場で活躍できるような貴重な学びの場を提供し続けています。未だかつてない、この大変革の時代に、国際的なキャリアを目指す皆様にとって、このHPCのプログラムは、かけがえのない体験となることでしょう。

修了生専用Webサイト

「国際機関等において当該分野のポストを獲得し、更には上位のポストに就いていくこと」を目的に、プライマリー・コース日本人修了生専用のウェブサイトページを2021年度も運用し、キャリア構築支援の拡充を図るため事業として6つのコンテンツを提供しました。

(1) Online Seminar(オンラインセミナー)では、これまでに開催された国連機関でのキャリア構築やメンタルヘルスに関するオンラインセミナーの動画を公開しています。

(2) List of Mentorsでは、本事業にご貢献をいただいている講師に許可を取り、プロフィール・現職肩書・駐在機関の一覧を掲載しています。修了生が講師層にキャリア構築に関して具体的な相談等を、HPCを介して開始できる機会を提供しています。また、修了生の相互交流の機会を充実させるため、許可をいただいた修了生の現職一覧を掲載し、相互に連絡を取り合えるように配慮し、相互ネットワーク構築の機会を促進しています。

(3) リモートワーク/オンライン研修のページでは、リモートワークに対するTIPSとPOTI (Peace Operations Training Institute)Eラーニング・コースの無料受講があり、プライマリー・コース修了生及びミッドキャリア・コース参加者の特典として、米国を拠点に活動するNGOであるPOTIが提供する平和活動に関連するEラーニング・コースを無料で受講することができます。また、各コースを受講し、最終テストにて75%以上の得点を獲得された場合、POTI代表者及び当法人代表理事の署名が入った修了証明書が発行されます。

(4) Career Periodic Diagnosis(キャリアの定期健診)では、プライマリー・コースで毎年日本人研修員向けにOffice CLUTCHの佐藤知央講師を招いて行なっている「キャリアデザイン研修」の内容を発展拡充させ、修了生が定期的に自身のキャリアを見つめる機会を提供しています。「キャリアデザイン研修」は研修終了から時間が経っている修了生らに対し、自分のキャリアと向き合い自信へつなげることや、課題を把握してキャリア・プランの充実への意識化を図ることを目的としています。また、具体的な相談やカウンセリングを希望する修了生にはHPCを介して講師と連絡出来る機会を提供しています。

(5) HPC独自のイニシアチブとして、事業修了生のキャリア構築支援を目的とする、外部トレーニング・ライフイベントに関する費用補助も行っています。

(6) オンライン・サロンでは、世界中に散らばる修了生を対象に個別的なテーマを設定し、ゲストを招いて付加的な専門的知識の付与、国連機関等の人事動向に関する情報共有、修了生間のネットワークの拡充などを図っています。



オンライン・サロン

今年度は、キャリア構築支援により力を入れていくため、修了生のニーズに合わせた支援・情報提供を行っていくことを目的としたオンライン・サロンを始めました。オンラインで行うことで、対面で支援できていない修了生に対しても充実した支援が行えることや、後日視聴もできるように修了生専用Webサイトにビデオを載せることで、いつでも修了生が関連情報を入手できるようにしました。これまでのキャリア構築支援の対象が主にプライマリー・コース修了生でしたが、ミッドキャリア・コース修了生にも参加していただき、層の厚い修了生間の貴重な情報やネットワークを共有していただく機会を提供しました。これによりキャリア構築支援の充実度が高まりました。2021年5月から2022年3月で計10回行いました。

オンライン・サロン 実施記録一覧 2021年度(令和3年度)		
01	2021年 5月29日(土)	「事業実施者からみた修了生のキャリア構築」
02	2021年 6月14日(月)	「オンライン意見交換会」
03	2021年 7月 2日(金)	「HCN コーディングサービス Webinar」
04	2021年 7月29日(木)	「ワークライフ・バランスと子育て」
05	2021年10月 7日(木)	「ミッドキャリア邦人職員会」
06	2021年11月13日(土)	「JPO経験者～意見交換会～」
07	2021年12月 4日(土)	「スーダン・エチオピア地域情勢勉強会」
08	2022年 1月21日(金)	「UNDPの政策と人事の動向」
09	2022年 3月12日(土)	「UNDP新『Competency Framework』について」
10	2022年 3月19日(土)	「The Crisis over Ukraine and Impartiality for UN staff」



講師として参加いただいた修了生の紹介

修了生の中には、国際機関の多種多様な活動の現場で、自分のチームを率いて具体的なプロジェクト等に対し責任をもって動かしている人材もいます。非常に重要なポジションであるために、従来は、なかなか研修への貢献のために日本に来ることも簡単ではありませんでした。実地で貢献いただく講師の数が制限される中、今年度のプライマリー・コースは、こうした多くの修了生の方々にオンラインでご登壇いただくチャンスに恵まれた研修でもありました。その結果、研修員の多様な関心に対応する平和構築・開発援助・人道援助にあたる主要な国際機関で活躍する11名の修了生の方々に講師として参加いただくことができました。研修員にとっては、現場で直接の上司になるクラスの国連職員の考え方を把握できるだけでなく、自分のキャリア構築のイメージも得られる貴重な機会となりました。以下の修了生の皆さんには、今年度の研修員に本事業後の数年間で、どのようにキャリアを構築していくことができるのかを深く考えるために、非常に刺激的な講演をしていただきました。



令和3(2021)年度プライマリー・コース に講師として参加した修了生

プライマリー・コース修了生

- 大庭 真理枝 (平成19年度修了生) 国連開発計画(UNDP) 南スーダン 再統合専門官
- 鈴木 恵理 (平成19年度修了生) 国連児童基金(UNICEF) 東部・南部アフリカ地域事務所子どもの保護専門官
- 渡辺 愛子 (平成20年度修了生) 国連平和活動局(DPO) プログラム管理官
- 熊丸 耕志 (平成23年度修了生) 国連開発計画(UNDP) 水セキュリティプロジェクトマネージャー
- 藤村 梨紗 (平成24年度修了生) 国連開発計画(UNDP)・国連政治・平和構築局(DPPA) 共同プログラムM&E・プログラム専門官
- 舩岡 真理 (平成25年度修了生) 国連世界食糧計画(WFP) アフガニスタンサプライチェーン担当官
- 桑田 弘史 (平成25年度修了生) 国連開発計画(UNDP) 国別支援管理チームプロジェクト調整専門官
- 大塚 玲奈 (平成28年度修了生) 国連開発計画(UNDP) デジタルイノベーション専門官

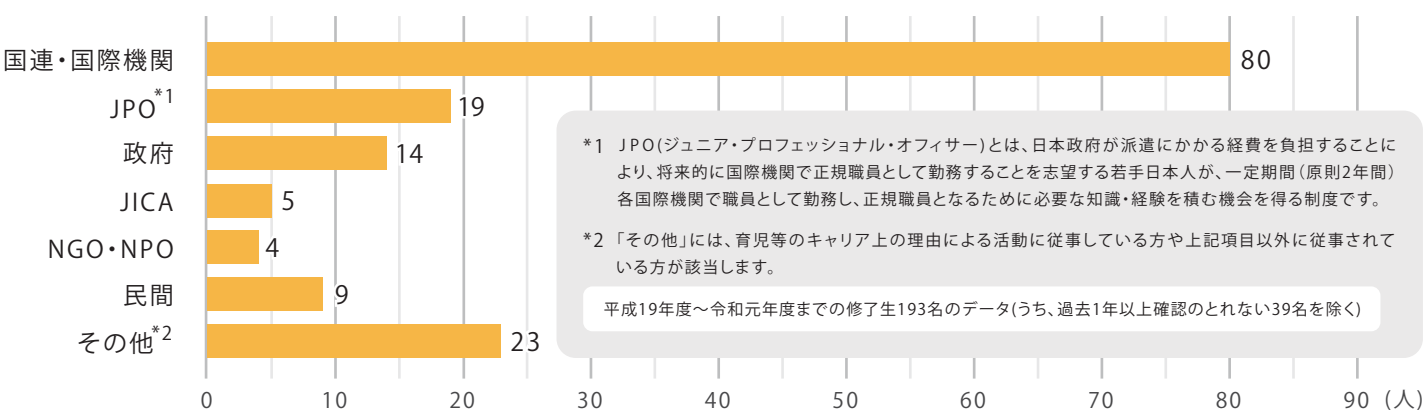
ミッドキャリア・コース修了生

- マリア・ロペス・エチェバリア (平成30年度修了生) 国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS) 復興と帰還、社会復帰担当官
- リサ・リーフキ (平成30年度修了生) 国連アフガニスタン支援ミッション(UNAMA) 政務部上級政務担当官
- 末藤 千翔 (令和2年度修了生) 国境なき医師団プロジェクトコーディネーター

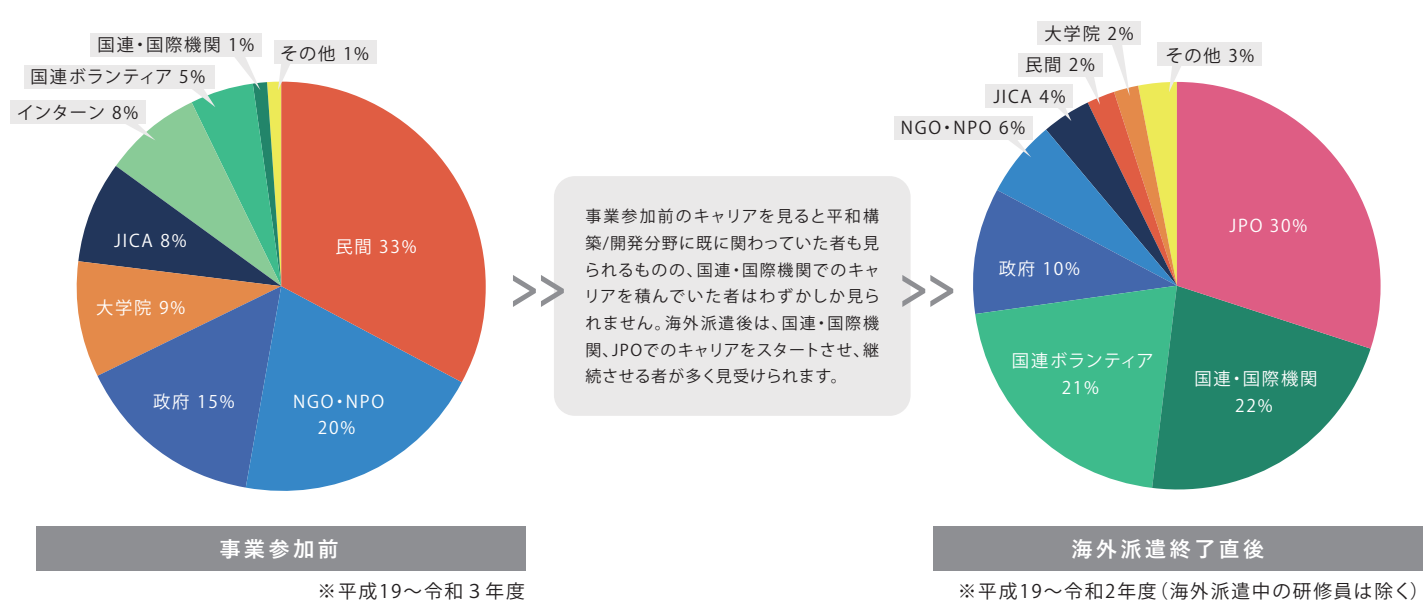


データでみるキャリア構築

プライマリー・コース日本人修了生の現在の職業



プライマリー・コース研修員・修了生の事業参加前後の職業



プライマリー・コース修了生が所属する国連・国際機関(平成19年度～令和元年度)

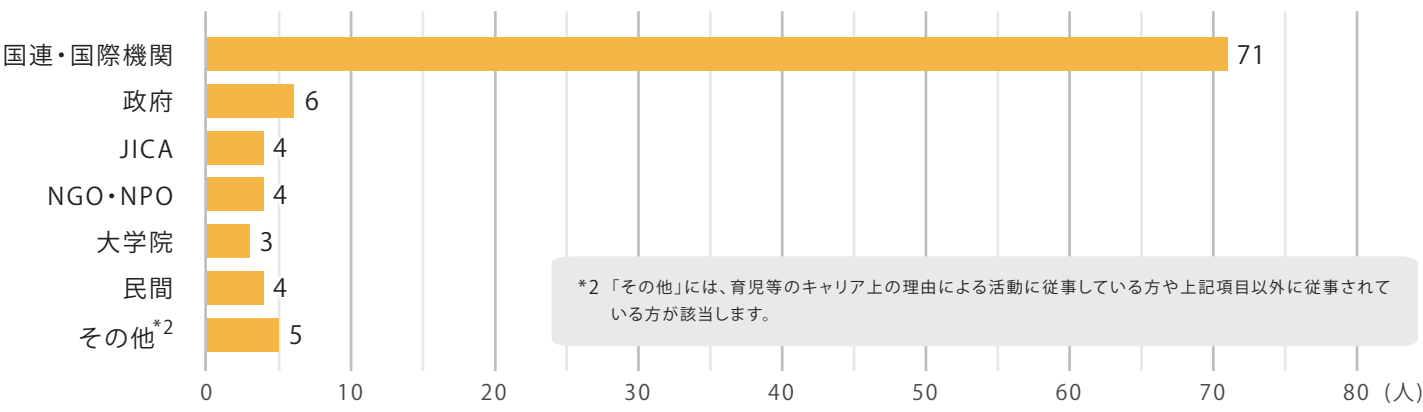
- | | | |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)／17名UNICEF(国連児童基金)／16名UNDP(国連開発計画)／11名WFP(国連世界食糧計画)／6名IOM(国際移住機関)／4名UNRCO(国連常駐調整官事務所)／3名UN Women(国連女性機関)／3名WB(世界銀行)／3名日本アセアンセンター／3名UNFPA(国連人口基金)／2名UNODC(国連薬物犯罪事務所)／2名UNV(国連ボランティア計画)／2名FAO(国連食糧農業機関)／2名UNU(国連大学)／1名UNODA(国連軍縮部)／1名 | <ul style="list-style-type: none">ADB(アジア開発銀行)／1名DPO(国連平和活動局)／1名EBRD(欧州復興開発銀行)／1名ICC(国際刑事裁判所)／1名IFAD(国際農業開発基金)／1名ILO(国連労働機関)／1名Joint UNDP-DPPA Programme on Building national Capacities for Conflict Prevention(紛争予防のための国家能力の構築に関する国連開発計画(UNDP)政務・平和構築局(DPPA)共同プログラム)／1名OCHA(国連人道問題調整事務所)／1名OHCHR(国連人権高等弁務官事務所)／1名OSCE(欧州安全保障協力機構ウクライナ特別幹事団)／1名SRS(国連紛争下の性的暴力に関する国連事務総長特別代表事務所)／1名 | <ul style="list-style-type: none">UNDPKO(国連平和維持活動局)／1名UNDRR(国連防災機関)／1名UNFIL(国連レバノン暫定軍)／1名UN-Habitat(国連人間居住計画)／2名UNMAS(国連地雷対策サービス部)／1名UNAMA(国連アフガニスタン支援ミッション)／1名International IDEA(民主主義・選挙支援国際研究所)／1名Global Fund(世界エイズ・結核・マラリア対策基金)／1名UNS(国連事務局)／1名UNSOS(国連ソマリア支援事務所)／1名WHO(世界保健機関)／1名 |
|--|---|---|
- ※JPO派遣・UNV契約延長含む(令和4年3月現在)

プライマリー・コース日本人修了生の国連のポスト

数多くのプライマリー・コース修了生が、国際機関の本部やフィールドで、責任ある地位について、平和構築・開発援助・人道援助活動の最前線を支えています。フィールドで自分のチームを率いて活躍したり、本部でも責任分野を持って貢献したりするランクであるP5に3名、P4に10名、P3に35名がついて、国際機関の活動を支えて奮闘しています。これらの修了生の方々は、新しい研修員たちがUNV等として国際機関で勤務し始める際に、直近の上司となる階層の方々です。本事業では、すでに修了生と研修員が交流する機会を設けるキャリア構築支援も多々行っていますが、こうした重厚な修了生の方々とのネットワークは、本事業が持つ大きな財産の一つです。

ミッドキャリア・コース日本人修了生の現在の職業

※令和4(2022)年3月時点



ミッドキャリア・コース修了生が所属する国連・国際機関(平成27年度～令和3年度)

- | | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">IOM(国際移住機関)／9名FAO(国連食糧農業機関)／3名UNIDO(国連工業開発機関)／1名WFP(国連世界食糧計画)／7名ICC(国際刑事裁判所)／1名日本アセアンセンター／1名UNDP(国連開発計画)／7名UN-Habitat(国連人間移住計画)／2名UNICEF(国連児童基金)／5名IMF(国際通貨基金)／1名UNIC(国際連合広報センター)／1名 | <ul style="list-style-type: none">UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)／5名ADB(アジア開発銀行)／1名UNODC(国連薬物犯罪事務所)／1名ILO(国連労働機関)／1名UNESCO(国連教育科学文化機関)／1名UNRCO(国連常駐調整官事務所)／2名WHO(世界保健機関)／2名UNAIDS(国連合同エイズ計画)／1名UNS(国連事務局)／2名WB(世界銀行)／1名INTERPOL(国際刑事警察機構)／1名 | <ul style="list-style-type: none">UNOPS(国連プロジェクトサービス機関)／2名UNFCCC(気候変動に関する国連枠組み条約事務局)／1名UNITAR(国連訓練調査研究所)／1名UNFIL(国連レバノン暫定軍)／2名UNITAMS(国連スーダン統合移行支援ミッション)／1名UNOCA(中央・東アフリカ地域事務所)／1名UNFPA(国連人口基金)／1名UNSOS(国連ソマリア支援事務所)／2名UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)／3名UNV(国連ボランティア計画)／1名 |
|--|--|---|

ミッドキャリア・コースの参加者の大半はすでに国連・国際機関に勤務している方々で、それ以外の方々も平和構築・開発・人道援助の最前線を担う政府機関や援助組織に所属していらっしゃる方々です。これはそもそもミッドキャリア・コースが、すでに平和構築関連の実務でキャリアを開始されている方々を対象にして、さらなるキャリアの進展を支援するために設定されている研修であるためです。(なお上記の資料は日本人参加者に関する情報ですが、外国人については基本的に参加者の全員が国連・国際機関のP4/P5相当のランクの職員の方々です。)研修終了後も、修了生の方々は、そのまま国連・国際機関あるいはその他の平和構築関連組織でキャリアを発展させていらっしゃいます。下記は、ミッドキャリア・コース参加後に国連・国際機関で昇進を果たされた方々の事例です。

ミッドキャリア・コース修了生のキャリアの進展を匿名で紹介します。

- | | |
|--|--|
| <p>事例 01
平成27年度コース参加当時P3ランクでUNMAS/UNSMIL Tunis, Programme Officerとして勤務。
UNMAS/UNOPS, Programme Officer - Grants and Contracts (P3)からUNOPS (UNMASプログラム), Iraq, Programme Officer - Budget and Compliance (P3)と職歴を充実させ、現在はP4ランクでUNRWA - Cash for Work Project Managerとして勤務されています。</p> | <p>事例 05
平成29年度コース参加当時P3ランクでパプアニューギニアのUN Resident Coordinator's Office, Communications Specialistとして勤務。
現在、東京のUNDP Representation Office, TICAD Partnership Specialist (P4)として活躍されています。</p> |
| <p>事例 02
平成27年度コース参加当時P3でIOMソマリア事務所にて人道支援部門の部長として勤務。
現在、IOM中東・北アフリカ事務所にてRegional Migration Health Specialist (P4)として活躍されています。</p> | <p>事例 06
平成29年度コース参加当時P3ランクでUN-HabitatアフガニスタンのKnowledge Management Officerとして勤務。
現在、UN-HabitatシリアにてProgramme Management Officer, Human Settlements (P4)として勤務されています。</p> |
| <p>事例 03
平成28年度コースに参加前、国連ボランティア (UNV) としてUNDPアフガニスタンでStrategy Planning & Results Unit / Peacebuilding and Development Specialistとして勤務。
IOMカメルーンにてProgram Manager, Disengagement, Disassociation, Reintegration & Reconciliation (DDRR) (P4)と職歴を充実させ、現在、同事務所にてProgramme Manager (P4)として勤務されています。</p> | <p>事例 07
平成30年度コース参加当時P3ランクでIOMシエラレオネにてProject Manager (TVET and Entrepreneurship)として勤務。
現在はIOMエチオピア事務所ガンベラ支所長 (Head of Office) として活躍されています。</p> |
| <p>事例 04
平成28年度コース参加当時P3ランクでMINUSMA, DDR Officerとして勤務。
現在、UNODCにてProgramme Coordinator (P4)として活躍されています。</p> | <p>事例 08
令和元年度コース参加前P2ランクでIOM本部にてMigration Health Emergency Response Officerとして勤務。
WHO本部に移り、Technical Officer (P3)と職歴を充実させていらっしゃいます。</p> |
| | <p>事例 09
令和2年度コース参加当時日本アセアンセンターにて調査・政策分析クラスター事業統括長代理兼クラスター長として勤務。平成21年度平和構築人材育成事業本コースの修了生でもあります。
現在、調査・政策分析クラスター長で活躍されています。</p> |

事業が目指すキャリア構築

「平和構築・開発のためのグローバル人材育成事業」は、2007年に立ち上げられた「平和構築のための人材育成パイロット事業」から数えて、15年目の「人材育成事業」になります。この間にたくさんの修了生が生まれ、平和構築・開発援助・人道援助などの分野で、大活躍をされています。新たに事業に参加してくる研修員にとって、先輩たちの歩みは大きな励みになっています。もちろん修了生の方々も、日々それぞれのキャリアの構築に努力をされています。仕事面での挑戦だけではなく、ライフイベントをどう乗り切っていくかも、長いキャリアの構築にあたっては、大きな課題となります。修了生一人一人に語りつくせないキャリア構築のドラマがあると言えますので、一般論でキャリア構築を語っていくことはできません。ただ、それだけに数多くの先輩方の歩みの中から一つでも多くの気づきを見出していくことが大切になるでしょう。こうした考え方から、今年度も「プライマリー・コース」では、数多くの修了生の方々に研修に講師としてご貢献いただき、様々な洞察を披露していただきました。ここではその一端を紹介させていただきたいと思います。

講師によるキャリア構築のアドバイス



大塚 玲奈
現在、環境・気候変動・エネルギーの分野で国連開発計画（UNDP）デジタルイノベーション専門官を務める。平成28（2016）年度事業修了生。2017年と2020年の間、UNDPニューヨーク本部で気候変動に関するデータイノベーション専門官、UNDPルワンダで環境専門官として勤務した。プライマリー・コースの一環で国連ボランティア（UNV）としてUNDPルワンダに環境専門官として派遣された。

民間セクターで働いた後、国際機関に関心を持ちました。ただ新しいキャリアに踏み出すには遅いのではないかと懸念はありました。そんなとき、今もプライマリー・コースの講師をなさっている中村俊裕さんと話ができた機会がありました。そこで「自分でも国際機関でのキャリアを進められるでしょうか」と率直に聞いてみたところ、「もちろんだよ」とおっしゃっていただいたことが、人材育成事業に応募する大きなきっかけになりました。すでに子どもも二人いましたので、ルワンダでのUNV勤務も容易ではありませんでしたが、石の上にも3年、の気持ちで延長を繰り返して頑張っていたところ、本部でのP4のポストを獲得することができました。結果的にはUNVとしての3年間は貴重な自分自身への投資となりました。



舩岡 真理
現在、国連WFPアフガニスタン事務所サブライチェーンオフィサーを務める。平成25（2013）年度事業修了生。高校時代より食料援助分野に関わることを目指し、国連WFPを志す。2014年WFPミャンマー事務所へ赴任、国内避難民キャンプへの食料支援等に携わった。WFPローマ本部を経て、WFPナイジェリア事務所・ラゴス支部所長。緊急支援の上流オペレーションを担当した。2019年4月よりWFPイエメン事務所赴任、現金及びバウチャーによる支援を担当した。2021年9月より現職、サブライチェーンのオペレーションを担当する。慶応義塾大学総合政策学部卒、London School of Economics and Political Science社会政策修士。

UNV、JPOを含め、国連で働き始めてからの最初の3年間程は、その後のキャリア構築において特に重要であると考えています。色々試すことのできるその期間に積極的に様々な経験を積み、所属する組織、働き方、専門性、新たに必要となる知識やスキル、そして何よりも自分の志向やライフスタイルに合うかどうかなどの分析を深め、情報収集を行うことが肝要と考えるためです。この分析が長期的なキャリア構築の計画を助けると感じています。またこの期間にソフトスキルや課題に対する情熱の確認を行うことの重要性も強調しておきたいと思います。



桑田 弘史
現在、国連開発計画（UNDP）ニューヨーク本部にて国別支援管理チームプロジェクト調整専門官を務める。平成25（2013）年度事業修了生。2015年から2020年の間、スーダン国連プロジェクトサービス機関（UNOPS）で給水、学校、保健所修復プロジェクトのプロジェクト・コーディネーター、ブータン国連常駐代表事務所（UN Resident Coordinator's Office）常駐代表補佐官、国連児童基金（UNICEF）南スーダン事務所UNICEF-UNDPパートナーシップ資金調達専門官として勤務した。プライマリー・コースの一環で国連ボランティア（UNV）として国連開発計画（UNDP）バングラデシュ事務所のチッタゴン丘陵地帯開発機関（Chittagong Hill Tract Development Facility（CHTDF））にプログラム・オフィサーとして派遣された。

今はニューヨークの本部勤務ですが、10年ほどはフィールドで働いていました。そこで多くのすごいなと思える人たちと出会えたことが財産になっています。自分にできないことであっても、多彩なネットワークを駆使して仕事を進めていく上司の姿などを見て、刺激を受けました。フィールド勤務と本部勤務の経験を組み合わせてキャリアを進めていくことが大切ではないかと思っています。日ごろからすべての業務に真剣に取り組んでいれば、自ずと応募面接の際にアピールできる経験はどんどん蓄積されます。ただもちろん日々の業務を遂行しながら常にコンピテンシーを意識し続けられるわけでもないので、ポストに応じた整理は必要になってくるとは思います。



藤村 梨紗
現在、ニューヨークで国連政治・平和構築局（DPPA）-国連開発計画（UNDP）共同プログラムM&E・プログラム専門官を務める。平成24（2012年度）年度事業修了生。2014年と2019年の間、国連事務局政務局（DPA）政務官補、平和構築支援事務所（PBSO）アソシエイト・エキスパート、UNDPシリア国事務所プログラム・スペシャリストとして勤務した。プライマリー・コースの一環で国連ボランティア（UNV）としてUNDPパレスチナ人支援プログラムにガバンス・アナリストとして派遣された。

国連の仕事をすると醍醐味は、特にフィールド事務所にいる際に、現地スタッフと対等な関係を持ちながら一緒に仕事をして行けることではないかと思っています。現地情勢に詳しい現地スタッフから学べることが沢山あり、刺激的でした。フィールドの仕事で一番良いのは、自分のアイディアを具体的な形にしていきやすく、クリエイティブになれるし、リーダーシップをとりやすいところだと思います。ただフィールドでは、仕事ばかりの生活になりやすいので、気分転換の方法をしっかりと作っていくことが大事です。できれば現地社会と接点のあるものが良いですね。自分自身は、しっかりフィールドでの経験を積んだ後に、ニューヨークでまた違った仕事を経験して、キャリアの幅を広げています。



熊丸 耕志
現在、マーシャル諸島の国連開発計画（UNDP）にてGCF資金による気候変動に強靱な水資源開発プロジェクト「ACWA」のマネージャーを務める。平成23（2011）年度事業修了生。過去12年間、国連児童基金（UNICEF）、国際移住機関（IOM）でソマリアや南スーダンといった脆弱・紛争の影響下にある地域を含め、サブサハラアフリカで水衛生（WASH）プログラムを通じた平和構築・人道支援・開発に従事した。環境省、UNICEFジュネーブ・東京で、アジア太平洋地域の気候変動適応の主流化や民間連携・イノベーションを通じた次世代のWASHプログラムに向けて尽力した。プライマリー・コースの一環で国連ボランティア（UNV）としてケニアにあるIOMソマリア事務所に水衛生専門官として派遣された。2011年に水資源工学の博士号（Ph.D.）を取得。

ソマリアや南スーダンなどのハードシップのフィールド経験をUNICEFやIOMで積み、日本の環境省とUNICEF民間連携部署での職歴も経た後、今はマーシャル諸島でUNDPの気候変動に強靱な水資源開発プロジェクトを担当しています。自分としては、開発援助を、人道支援や平和構築と結びつけていくことをライフワークとして考えているため、水を軸として現場、政策、気候変動、民間連携といった多様な切り口を異なる組織で経験してきた軌跡の全てが今に生きています。南スーダンで生死の境をさまよい、隣国ケニアに搬送され入院した時は、自分のカラダはもとより、再び現地に帰ってしんどい立場の子どもたちやお母ちゃんたちに寄り添えることができるのか、そんな不安に苛まれて辛い時期がありました。そんなとき病院に駆けつけて寄り添ってくれたのは、プライマリー・コースの同期の仲間でした。心を許せる友人や仲間がいてくれることに強く感謝しながら、再び南スーダンの現場に戻ったことを覚えています。



渡辺 愛子
現在、国連平和活動局（DPO）プログラム管理官を務める。平成20（2008）年度事業修了生。2011年と2018年の間、在エチオピア日本国大使館経済協力調整員、国連事務局 PKO 局アジア統合オペレーションチーム准政務官、事務次長室（PKO 担当）政務官、事務総長室国連オペレーション・危機管理センターレポーティング・オフィサー、プロジェクト・オフィサーとして勤務した。プライマリー・コースの一環で国連ボランティア（UNV）として国連開発計画（UNDP）コソボにプログラム・アナリストとして派遣された。

より良く働くためには、より良く休むことが必要だと思います。ただずっと懸命に働き続けているだけでは、私たちはただ摩耗してしまっただけです。特に部下を持つようになったら、部下に休ませるためにも、自分が上手く休むところを見せていかなければなりません。効率的に働くということは、効率的に休むということと同じです。休むというのは、仕事のスイッチを切るということです。パンデミックの時代のリモート勤務が常態化した環境では、自宅が職場になってしまうなど、スイッチの切り替えは一層難しくなっています。だからこそスイッチを切り替えることを上手にマネジメントしていくことの重要性は増えています。単線的に発展していくキャリア構築は存在しません。現実には人生のライフイベントなどが作り出す多くの曲線をマネジメントし続けていかなければなりません。



鈴木 恵理
現在、国連児童基金（UNICEF）東部・南部アフリカ地域事務所での子どもの保護専門官を務める。平成19（2007）年度事業修了生。2006年から2018年の間、子どもの保護担当官・専門官としてユニセフ・シエラレオネ事務所、南アジア地域事務所勤務した。プライマリー・コースを通じては、国連ボランティア（UNV）としてスーダン・ダルフルの PKO ミッション（民生部門）に派遣された。

仕事だけではなく、生きていれば多くのライフイベントに遭遇することになります。職種の性質上先が読めないことも多い中、自分の心身の健康や家族のことも考えなくてはなりません。例えば、私は、新しいポストに応募する際には、子どもたちの学校の質、大気汚染の程度、夫も仕事を見つけられやすそうな場所かなど色々な要素を見ます。日本にいる家族がサポートが必要になることもあります。年齢を重ねると考えることも増えて、なかなか骨の折れることで、うまくバランスを取りながら臨機応変にやっていくしかありません。若いころに異なる組織や仕事を経験して自分にとっての向き不向きを判断するのも大事なことです。私は、途中で開発寄りにシフトしました。



大庭 真理枝
現在、南スーダンにおける衝突の解決に関する再活性化された合意を支援する国連開発計画（UNDP）南スーダン再統合専門官を務める。平成19（2007）年度事業修了生。平和・安全保障における多様な経験を持つ。国連コンゴ民主共和国安定化ミッション（MONUSCO）ジェンダー・選挙顧問、女性の安全保障を推進するための国連女性機関（UN Women）コンゴ民主共和国での性的暴力（SVC）に関する特別顧問、コンゴ民主共和国における性的暴力に取り組むための国連コンゴ民主共和国安定化ミッション（MONUSCO）上席プログラム担当官として勤務してきた。

キャリア構築において一番重要なことは、ビジョンを持つことだと思います。自分自身について言えば、Peace and Securityにこだわるビジョンを持ってやってきました。Peace and Securityでキャリアを伸ばしていくためには、どんな仕事に意味があるか、自分がやりたいことは何かというビジョンを第一にして、経験を積んできました。色々な機関で勤務し、防衛協力において大使館と働いてとても順調だった時もランクがその当時より低くさらに厳しいフィールドのポストをあえてとったときもありました。それも自分のビジョンを大切にすると観点からは一貫性があったからだったので、振り返ってみれば時々後悔したこれらのハードシップ経験が結果的に価値のあるものとなり総合的に見ても有用でした。良いことかは分かりませんが、私の場合はチャレンジに挑み、そこでベストを尽くし、前向きに、現在のPeace and Securityの仕事に貢献する特徴的な多様な視点を得ることを目指しています。本当に大切なのは、多様な経験を積みながら、キャリアとしての一貫性を保つビジョンを持って行くことだと思います。私は、今まで自分が前向きでユニークな性格の持ち主であると思っていましたが、これから自分がどうなっていくのかは、まさに神のみぞ知るといったところでしょうか！

ピースビルダーズ対談

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業の研修講師のほとんどの方々は、国際平和活動の貢献者であり、国際機関の現役職員です。これらの講師の方々は将来の平和構築実務家のために模範的な人物としての役割を果たしています。研修の参加者は、講師との集中的な関わりから、講師の興味深いキャリア構築への深い洞察を学び、大変に大きな恩恵を受けることになります。ここでは、本事業のプログラム・ディレクターである篠田英朗を聞き役として、プライマリー・コースの講師の一人でもあるリサ・リーフキ氏に国連での勤務の様子を聞き、キャリア構築の軌跡などを探っていくことにします。



リサ・リーフキ

現在、国連アフガニスタン支援ミッション(UNAMA) 政務部上級政務担当官を務める。平成30(2018)年度事業ミッドキャリア・コース修了生でもある。2013年から2019年国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)で南スーダンと平和プロセス及び国民対話の支援におけるミッションの政治アウトリーチ・分析促進を務めた。また、2016年ブルンジの国連事務総長紛争防止特別顧問室でインクルーシブなブルンジ国民対話のための和平調停・周旋(Good Offices)を促進し、紛争分析・ステークホルダー・マッピング・戦略計画を支援した。2010年から2013年には、国連レバノン暫定駐留軍(UNIFIL)司令官及び代表の政務顧問・特別補佐官を務めた。2006年から2010年には国連本部にある平和活動局アジア・中東部で勤務した。2005年から2006年には、国連東ティモール事務所(UNOTIL)・国連東ティモール統合ミッション(UNMIT)国連事務総長特別代表の上級補佐官を務めた。2003年から2004年東ティモール国連開発計画(UNDP)、そして2002年スイス本部の国連訓練調査研究所(UNITAR)で働いた経験も持つ。

【篠田】あなたは長い間国連で働いていますよね。あなたが国連に入る道を開いたのは何でしたか。

【リーフキ氏】政治学と国際法の勉強が修了した時、ドイツ政府が資金拠出する国際機関のインターンシップの公示を見ました。ジュネーブの国連訓練調査研究所(UNITAR)でインターンシップをしていた時、ハーグ国際法アカデミーのフェローシッププログラムの実施をサポートしました。そこで専門家達と多国間外交について意見交換をしました。その経験は国連でのキャリアを目指すきっかけとなりました。国連での仕事はとてもやりがいがあり、また多様です。

【篠田】国連のどの側面があなたにとって、特に政務官として、魅力的でしたか。

【リーフキ氏】私は初めに東ティモールの国連開発計画(UNDP)で開発と紛争後の復興の分野で働きました。しかし、紛争の解決は政治レベル

でやって来ることに気がつきました。国連本部で国連平和活動の政務官として勤務する中で、政治的関与・分析について情熱を持つようになりました。私はキャリアの中で、国民対話や和平調停を含む政治と平和のプロセスを促進する機会を持ちました。国連平和ミッションは最も複雑な状況であっても解決策を探します。平和のための国連の挑戦に関心を持ち、平和を求め貢献するための入り口となりました。

【篠田】という、国連はあなたが求めることを目指すことができる環境であるという確信を持ったということですね。

【リーフキ氏】はい。国連は様々なテーマ領域に関わっています。私の場合は、主に国連の平和維持活動と特別政治ミッションで働いてきました。私は主に政務の分野で専門性を得て、国連での幅広いテーマ領域の専門家達と一緒に働いて他の分野について学ぶことを楽しんでいます。これは大きなモチベーションとなっています。

【篠田】しかし、あなたのキャリアで順調な時とそうでない時があったことは確かだと思います。何があなたの国連でのキャリアの継続を可能としたのですか。



平成30(2018)年度 ミッドキャリア・コースに参加している様子

【リーフキ氏】たくさんの素晴らしい同僚と働けたことが幸運でした。ジュネーブで働き始めた時、複数のポストへの応募をととして国連システムがどのように機能するか理解することができました。自身のキャリアの始めでやる気を落としたり、目標を失ったりしないことが極めて重要です。私は東ティモールで私にとってモチベーションを非常に高めてくれて、視野を広げてくれた仕事をするユニークな機会を持ちました。それ以来、国連を去りたいとは一度も思ったことがありません。私はプライマリー・コースの講師でもある当時国連事務総長特別副代表(東ティモール担当)兼国連東ティモール支援団(UNMISSET)副代表の長谷川祐弘氏に、キャリアの初めの頃に出会いました。長谷川氏は現在までの20年間大切にしているメンターシップを、私に提供してくれました。彼は私が国連の働きに貢献することができるよう学び成長するための課題を与えてくれます。私はこれに対して本当に感謝しています。国連での私のキャリアの成長は、長谷川氏のような素晴らしい同僚がいなければ可能ではありませんでした。



東ティモールでの長谷川祐弘氏との出会い
(写真提供:UN Photo/Mark Garten)

【篠田】つまり、あなたの関心は政治問題への解決方法を見つけることから始まり、そしてそれから、国連で同僚と働くことに面白みを見出したということですね。

【リーフキ氏】国連憲章の目的と理念は、平和維持や政治ミッションでの私のキャリアの舵取りに常に大切です。それと同時に、同僚と一緒に働くことがもう一つの国連で働く動機です。国連の価値にインスピレーションを受けた同僚と仲間がいるチームを持つことができたなら、国連での経験はとても特別なものになります。私が国連で学んだことは、自分自身のチームに本当に注力しなければいけない、ということです。いわばチームを輝かせる、ということの重要性です。いち個人としてではなく集団的な経験と変化をもたらす効果についてです。素晴らしいチームを持つことは、一人で達成できること以上のことを成し遂げることを可能にします。それは国連での勤務で最も実り多く美しい部分です。しかしながら、良いチームを維持することは大変なことであることは付け加えておきます。

【篠田】国連で働く素晴らしいことはシニアメンターのような同僚も含め良いチームで素晴らしい同僚と働くことという話に感銘を受けます。

【リーフキ氏】良いチームで働くことは、仕事や支援する人々に大きな影響を与えます。私たちの様々な支援を必要としている人々が、多くの国々にいます。自分の身の回りにある小さなことの中にも、それを必要としてくれている人々との関わりの中で、変化を起こせることがたくさんあります。

【篠田】それは素晴らしく、人材育成事業を実施するHPCの哲学とも共鳴します。私たちは常に良いチームの良い同僚になることについて話しています。素晴らしい同僚達と働いた豊かな経験からどのような変化を国連でのキャリアで体験したかお話しいただけますか。

【リーフキ氏】興味深い質問です。私は国連でニューヨークとジュネーブ本部や東ティモール、南スーダン、ブルンジ、そして現在いるアフガニスタンのようなたくさんの紛争国や脆弱国で20年間働いたことで、仕事上そして個人として成長したと感じます。各国にはそれぞれ特徴的な状況があります。政治分析官には、紛争と平和のダイナミクスを知るうえで、これらの様々な要素を理解することが必要です。国連機関とパートナーのそれぞれ出来る事、出来ない事を幅広く理解することは、誰にいつ、どのように相談するかを特定する助けになります。私が20年前キャリアを始めた時は、こうした課題に対する仕事上の理解力を持っていませんでした。私は日々自分自身が成長することを求めています。長谷川氏がよく使うアルバート・アインシュタインの「いかなる問題も、それを作りだした時と同じ考え方によって解決することはできない」の引用を思い出します。本当にその通りです。

【篠田】それはプロフェッショナルリズムに対する素晴らしい表現方法です。あなたは多くのハードシップ地域で働かれましたが、何があなたの動機の要因であるか気になります。既に私達のためにそれを表してくれましたが、あなたのプロフェッショナルリズムの源をもう少し詳しく話していただけますか。



アフガニスタンの平和と安定を支援してきた国連
(写真提供:UN Photo/Fardin Waezi)

【リーフキ氏】様々な要素があります。一つは現地の人々を支援したいという思いです。政務官の仕事は、利害関係者が政治的解決を見つけることを助けることです。それは関係づくりと信頼構築を必要とし、しばしば長く大変であることがあります。これに加えて、貢献したいという気持ちが私にとって極めて重要です。現場の状況を真の意味で知ることができる現場で働くことを大切にしています。現場にいる人々と話すことで自分自身の仕事の目的を明確に見ることができます。東ティモールでの元武装兵の社会統合、南スーダンでの国民対話プロセス、そしてその他たくさんの平和活動で、彼らの社会で平和に貢献する思いを持つ人々に会いました。ただし、現場の仕事は時々難しく胸が打ち碎かれる要素を含んでいることも事実です。自身と同僚のメンタルヘルスの維持の確認は重要であることを強調したい。本部で働くことは、視野を広げる助けになり、等しく重要であることも強調します。

【篠田】それは全てとても勇気付けられることだと思います。しかし、例えば2022年初めにアフガニスタンのようなハードシップ地域で働くことはたくさんの困難があったに違いありません。現在の職場環境でそれらの困難にどのように取り組んだか教えてもらえますか。

【リーフキ氏】たくさんの困難があります。新たな暫定政権が誕生したことで国際社会は過去20年間で築いた進歩を守りたいと思っています。国連は全てのレベルでのコミュニケーションを促進することを求めています。我々は紛争の回避又は解決のために異なる価値観を繋ぐことを推進する必要があります。異なる価値観を導くのは困難ですが、それが唯一の方法です。

【篠田】とても建設的で前向きなあなたを見るととても感心します。あなたに敬意を表し、そしてあなたのプロフェッショナルリズムを素晴らしく思います。では、この示唆に富んだ対談を閉じるため、国際機関でのキャリア構築を目指すこの事業の修了生及び将来の研修員・参加者への最後の助言をお聞かせください。

【リーフキ氏】そのような文脈においては、いくつかの点を強調したいと思います。一つは、国連がカバーする分野がとても広いことです。国際平和・安全保障、開発又は人道援助で自分自身の専門分野を選んでください。他の人から学び、関心を持ち、自分自身の考え方を創造的で変革的に、そして秀でるために日々自分自身に挑戦することが重要です。自分自身のモチベーションを保つ仕事に対して情熱的になることが大切です。もう一つの助言は、あなたのチームとうまく仕事をするということです。各チームメンバーをエンパワーし、共に働き、支えることです。幅広く組織をまたいで同僚やパートナーと働くことは、本当に有意義であり、あなたがより良く働く助けになります。最後に、常に自分自身と同僚のメンタルヘルスには注意してください。そして同僚が直面しているかもしれない困難に配慮してください。彼らの困難はあなたのものとは違うかもしれませんが。だから、あなたの支えを必要としている時は気づいてください。そして、最後に国連が提供する多様な経験を楽しんで大切にしてください!



南スーダンにおける国連南スーダン共和国
ミッション(UNMISS)の活動風景
(写真提供:UN Photo/Zenebe Teklewold)